

自然教育園の鳥類について

新たに記録された鳥類などの追加

千羽 晋示* 坂本 直樹**

A Note on the Birds of National Park for Nature Study (Supplement)

Shinji Chiba* and Naoki Sakamoto**

先の報告では、1975年現在までの記録鳥類である13目、33科、98種及亜種について記したが(千羽, 1978), この報告ではその後、新に観察された2目、2科、3種と、記録として残すべきいくつかについて記しておく。

学名、和名については、日本鳥類目録第5版(日本鳥学会, 1974)によった。

自然教育園鳥類目録に追加する鳥類

カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

カイツブリ *Podiceps ruficollis poggei* (REICHENOW)

20・Ⅳ・1980(早谷:水生:繁殖)

5月10日(初卵), 14日(3卵), 4卵目不詳, 6月2日(3羽孵化), 5日(巣よりでて泳ぐ)

1979年夏に水生の泥の浚せつで、開水面が広がったために飛来したものと考えられる。

スズメ目 PASSERIFORMES

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ウグイス亜科 SYLVIINAE

ヤブサメ *Cettia squameiceps* (SWINHOE)

23・Ⅳ・1976(八木和主男)

ヒタキ亜科 MUSCICAPINAE

サメビタキ *Muscicapa sibirica sibirica* GMELIN

24・Ⅱ; 29・Ⅱ; 3・Ⅲ・1976(八木和主男)

この結果、1980年7月末現在で、14目、34科、101種及亜種の鳥類が、自然教育園で記録されたことになる。

観察記録としての追加

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax nycticorax* (L.)

* 国立科学博物館付属自然教育園, National Park for Nature Study, National Science Museum

** 明治学院大学, Meiji Gakuin University

同年数羽が湿地、池沼を主に生息しはじめる (1980).

ダイサギ *Egretta alba* (L.)

24・Ⅰ・1980 (ひょうたん池)

コサギ *E. garzetta garzetta* (L.)

1973年ころより頻度高く飛来するようになり、1979年11月から1980年3月では、観察頻度も80~100%と高くなる。1~5羽。

アオサギ *Ardea cinerea jouyi* CLARK

23・Ⅳ・1977 (水生)

オシドリ *Aix galericulata* (L.)

26・Ⅸ・1976 (4羽), 23・Ⅷ・1977 (2羽), 8・Ⅷ・1980 (1羽: いずれも初認)

20・Ⅹ・1978 (♂8・♀5), 21・Ⅱ・1980 (♂20・♀16), 17・Ⅴ・1980 (♀♂終認?)

カルガモ *Anas poecilorhyncha zonorhyncha* SWINHOE

6・Ⅴ・1979 (2羽), 23・Ⅰ; 17・Ⅴ・1980 (6羽), 11・Ⅰ・1980 (4羽)

コガモ *A. crecca crecca* L.

23・Ⅳ・1977 (♂10・♀10), 6・Ⅴ・1979 (♂3・♀4)

ノスリ *Buteo buteo japonicus* (TEMMINCK et. SCHLEGEL)

14・Ⅱ・1977 (翼に傷・保護後放鳥)

以後記録なし

ハヤブサ *Falco peregrinus japonensis* GMELIN

13・ⅩⅢ・1979; 17; 30・Ⅰ・1980; 2・Ⅱ・1980 (上空通過)

チョウゲンボウ *F. tinnunculus interstinctus* HORSFIELD

11・ⅩⅢ; 1979; 24・Ⅰ・1980 (上空通過)

ホトトギス *Cuculus poliocephalus poliocephalus* LATHAM

26~27・Ⅴ・1978; 26・Ⅴ・1977 (T字路)

カワセミ *Alcedo atthis bengalensis* GMELIN

6~27・ⅩⅢ; 24~27・Ⅷ; 26・ⅩⅢ・1979 (1羽・ひょうたん池~水生)

キセキレイ *Motacilla cinerea caspica* (BREHM)

15~23・Ⅹ; 13; 25・ⅩⅢ; 1976; 25・Ⅷ; 1~7・ⅩⅢ・1979

ハクセキレイ *M. alba lugens* GLOGER

12・ⅩⅢ・1975; 12・Ⅰ (3羽); 21・Ⅲ・1980

サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus* (RAFFLES)

29・Ⅳ・1976 (シイ並木)

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus auroreus* (PALLAS)

28・Ⅹ・1976; 2~9・ⅩⅢ・1979 (♂1・♀2); 25・Ⅰ・1980

ノビタキ *Saxicola torquata stejnegeri* (PARROT)

16・Ⅹ・1976 (八木和主男)

ウグイス *Cettia diphone cantans* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

17・Ⅹ・1979 (初認); 28・Ⅱ・1978; 8・Ⅲ・1980 (初鳴)

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus orientalis* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

7~27・Ⅴ; 6・Ⅷ・1976; 17~30・Ⅵ・1979 (水生・武蔵野)

- キビタキ *Ficedula narcissina narsissina* (TEMMINCK)
8 ~ 9・Ⅴ・1976 (♂: シイ並木); 6・Ⅺ・1979 (5羽)
- オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* (TEMMINCK)
25・Ⅳ (♂: イモリ池); 3・Ⅹ・1976 (幼: 八木和主男)
- ウソ *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* LAFRESNAYE
25・Ⅺ・1976 (1羽, 水生)
- イカル *Eophona personata personata* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
5・Ⅺ・1975 (1羽)
- コムクドリ *Sturnus philippensis* (FORSTER)
24・Ⅹ・1976 (1羽: 小鳥の森)
- カケス *Garrulus glandarius japonicus* TEMMINCK et SCHLEGEL
4・Ⅲ・1976; 9・Ⅹ・1979; 16, 22・Ⅱ; 4・Ⅲ・1980

以上, 若干の記録を記した。ほかにも多くのものがあるが, 次の本報告の際に記す。

抄 録

千羽晋示. 1978. 自然教育園の鳥類について. 自然教育園報告, 8: 75—106.

自然教育園における鳥類群集に関する調査結果や報告などの経緯について記すとともに, 1966年に発表した鶴田他の目録を追加, 補正し, 13目, 33科, 98種の目録と主な確認年月日を記した。

また, これら鳥類を科ごとに概観し, これまでの変動のようすと考察をつけ加えた。

本稿には, 1972年9月から1975年12月までの鳥相内優占度および出現頻度表を示してある。

動物関係その他の抄録

坂巻義章・伊野良夫・大島康行. 1979. 自然教育園四林分の土壌呼吸について. 自然教育園報告, 9: 91—98.

1977年4月から1978年3月まで, 毎月自然教育園内のスダジイ, コナラ, クロマツ, ミズキの4つの林分で土壌呼吸速度を測定した。年間の全土壌呼吸量はコナラ林, ミズキ林, スダジイ林, クロマツ林の順に高く, コナラ林はクロマツ林の全土壌呼吸量の70%であった。月間の土壌呼吸量の最大はクロマツ林の7月の値で, 約 $378\text{gCO}_2\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{month}^{-1}$ である。A₀層はミズキ, スダジイ, コナラ, クロマツ林の順に厚い。そして, ミズキ林の落葉層の呼吸量が高く, また A₀層が少ないのはミズキの落葉の分解が早いためであると考えられる。また落葉層の呼吸量の占める割合は全土壌呼吸量の6~13%程度であるが, 各林分の全土壌呼吸量はA層の厚さと正の相関が認められる。このことは呼吸の基質である土壌有機物量が全土壌呼吸量の大小に深くかかわっていることを示している。

四林分で推定された全土壌呼吸量 $2.16\sim 3.02\text{kg CO}_2\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{yr}^{-1}$ は春日山と水俣で桐田(1971)によって推定されたそれぞれ $4.66\sim 5.70$, $3.36\sim 4.59\text{kg CO}_2\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{yr}^{-1}$ の値に比べかなり低い。このちがいは自然教育園の気温がやや低いことのほか, L層の呼吸量が影響していると考えられる。このほか, 園内の植物の葉は汚れた都市の大気のため, 真黒に汚れ, 落葉した葉の表面に付着した汚染物質が分解を遅らせていることも考えられる。

一方この調査ではL層を除いた土壌呼吸速度は初めから落葉を除いて測った。このため過大な測定値が得られたことも考えられる。